

## 1 取組名称

心理学研究を体験学習するためのシステム構築

## 2 対象科目名

心の科学、心理学方法論、心理学の基礎

## 3 取組実施代表者名

人文社会学部人間社会学科 准教授 石原 正規

## 4 取組年度期間

平成 29 年度～平成 30 年度（2 年間）

## 5 取組の概要

現在、全学共通科目においては、各担当者が独自に心理学研究への参加の機会を与える試みを行っている。また、「心の科学」においては、レポートの課題として、授業時間外に心理学研究に参加して解説を聞き研究内容をまとめさせている。しかし、各担当者が別途に行うことにより、経験できる心理学研究の分野に偏りが生じるといった問題や、複数の授業を受講している学生がどのような実験に参加しているのかについての情報の統一管理ができないといった問題が生じている。

この問題点を解決するために、心理学分野で提供している複数の全学共通科目（心の科学（2 科目）、心理学方法論、心理学の基礎）において、実際は心理学の知見がどのような形で作られているか、どのような方法で行われているかについて学ぶための、講義時間外に心理学研究の実際を経験する体験学習の機会を効率的に与えるためのシステムを構築する。

受講生はシステムに登録することで、事前に、(1)方法論の異なる様々な心理学研究の実際をビデオコンテンツで学び、(2)web 上で参加前の練習を行う（Flash および Java コンテンツを予定）。(3)受講生は、提供されている心理学領域（a.知覚・認知系、b.社会系、c.発達系、d.臨床系）の実験・調査に対して、関心のあるものから順に参加予約を行い、(4)担当者からの連絡後、実験・調査に参加する。(5)参加後、受講生が再度システムにログインすると、どの心理学領域の実験・調査に参加したか、どのような結果であったかが一覧表示され、参加状況を把握することができる。心理学は領域によって研究内容や方法論が異なることも大きな特徴であり、受講生が自らの参加状況をもとに研究領域間の特徴を比較することができれば、心理学研究法への理解も深まると考えられる。

本取組は各教員が担当する講義内容（学び）と体験学習（気づき）を効率的に連動させ、体験学習の機会を与えることを目的とする。

## 6 事後評価の総合評定

3. 3 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った 5 段階評価（5～1）の平均点

## 7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 講義、講義外の体験学習、有効な評価基準の設定、ウェブツールの利用、アプリケーション開発などをうまく組み合わせたバランスの取れたプログラムである。また、実際に実験・調査への積極的な参加を促すことに成功している点も評価できる。
  
- 能動的学習を進めるシステムを、領域全体で構築する試みは重要であり、高く評価できる。
  
- 授業外体験学習の効果が期待できる結果が出ているとすれば、履修学生全員がそれに取組む制度にしていく必要がある。